



薬事日報社

東京本社 〒101-8648 東京都千代田区神田和泉町1-11
大阪支社 〒541-0045 大阪市中央区道修町2-1-10
購読料 半年17,640円 (税込) 1年32,340円

きょうの紙面

6件の新薬を了承 第2部会……②
偽造医薬品の根絶へ 新プログラム……③
特集 ④～⑤
〈消炎鎮痛薬〉
本号8ページ
「メディカル版」
別刷8ページ

小児薬認定薬剤師誕生

初の試験で256人が合格

日本小児臨床薬理学会と日本薬剤師研修センターが育成を進める「小児薬物療法認定薬剤師」の第1回認定試験が実施され、256人が合格した。初めての認定薬剤師となる合格者の約半数は、保険薬局の薬剤師となった。小児専門の医療

機関に勤務する病院薬剤師にとどまらず、子どもの特性を十分に理解した薬局薬剤師を地域に展開することにより、日常的に適切な用法・用量、剤形等が存在しない小児薬物療法の安全性を高めていくことが期待される。

オール薬剤師で安全確保へ

小児薬物療法認定薬剤師は、小児臨床薬理学会と薬剤師研修センターが創設し、昨年からの研修会が行われてきた。子どもの薬物療法に関する領域で、一定水準以上の能力と適性を持つ薬剤師が認定される。試験に合格することが認定の条件となる。

試験内容は「小児薬物療法研修会」の講義内容は、小児の特性や剤形、特有の服薬指導と調剤、小児のアレルギー疾患や川崎病、てんかん等の病態と治療、治験など34項目と多岐にわたる。これらの中から試験問題として70題が出題された。幅広いテーマから均等に選択され、薬剤師国家試験と同じ形式で実施された。

研修会は306人が受講し、そのうち第1回試験には300人が受験申請し、256人が合格した。試験当日には、総括講義も行われ、昭和大学医学部小児科の板橋家頭夫主任教授が

「小児の特性を理解し、そのうち第1回試験に合格した。試験当日には、総括講義も行われ、昭和大学医学部小児科の板橋家頭夫主任教授が

無季言

◆真摯に薬の説明をしてもお客さんを量販店に奪われる。何をしているか分からぬ。十数年前に聞いた、量販店の台頭に対する零細薬局経営者の嘆息の声だ。◆かつて医薬品販売でドラッグストア等の量販店がとった施策はセルフ方式の安値販売だった。これは生活者の利便性を追求したものの。仮にネット販売全面解禁となれば、生活者はそうした店舗に赴くこととなる購入できることになるのか。◆現在、厚労省のネット販売のルール作り

ら、小児薬物療法認定薬剤師が目指すべき方向性が訓示された。合格者の約半数は、保険薬局の薬剤師となった。地域の保険薬局では、かぜやアレルギーなど、耳鼻科領域の処方箋が多いが、研修会の講義には小児救急の知識など専門性の高い内容も盛り込み、子どもの特性を知る総合的な薬剤師の認定を目指した。

今後、認定薬剤師が全国にネットワークを構築することにより、情報交換や臨床研究などを進め、薬物療法を受ける子どもの安全確保を最大の狙いとする。これまで薬局では、小児の処方箋の取り扱いが十分でなかった。医師が誤った用量を記載した処方箋に気づかず、そのまま調剤してしまうような事例が見られ、小児科の専門医からは、薬剤師に処方箋の誤りをチェックするセーフティネットの役割を果たしてほしいとの声が上がっている。

遠隔講義システム 14年度から稼働

附属薬局の開設でも連携

四国3大学4薬学部

四国3大学の3大学4薬学部は昨年10月から、薬学教育の改革に連携して取り組んでいる。講義をリアルタイムで他大学に中継できる遠隔講義システムを2014年度から各大学で本格稼働させ、講義の共有化や単

位互換を実現する。また同年度以降、各薬学部附属薬局を設置し、教育施設としての運用のあり方を共有化する。

2012年度から実施された文部科学省の大学間連携共同教育推進事業の一環として行われている。四国の薬系分野で連携を組んだのは、徳島大学薬学部、徳島文理大学薬学部、同香川薬学部、松山大学薬部の3大学4薬学部。附属病院と高い研究実績がある徳島大学、充実した

文系学部の協力が得られる松山大学、他の医療系学部と連携し総合的な医療人が養成でき医療情報のIT化に取り組んでいる徳島文理大学、それぞれの強みを結果し、薬学教育改革を進める。

13年度中に4薬学部全ての遠隔講義システムを導入。併行して各薬学部の大学の講義をリアルタイムで受けたり、録画された講義を後で聴いたりできる仕組みを整備する。



代表者の桐野氏 桐野豊氏 (徳島文理大学学長) は「単位制の6〜7割を占めるモデル」にも参画している。一方、14年度以降に各薬学部は附属薬局を設置し、へき地医療、在宅医療、医療情報活用などのモデル的な教育活動を共同で展開する計画だ。

休刊のお知らせ 3月20日号は国民の祝日のため、休刊いたします。また、22日付は「日本薬学会第133年会」となりまして、ご了承ください。

薬事法・薬剤師法 毒物及び劇物取締法 解説 第23版



薬事関連3法を条文毎に、要旨、解説、関連政令・省令をセットにして掲載し、わかりやすく、体系的・実践的に編集。

【平成25年2月20日公布の“指定薬物包括指定導入”（平成25年3月22日施行）に完全対応】

- 【薬事法第2条第14項に規定する指定薬物及び同法第76条の4に規定する医療等の用途を定める省令の一部を改正する省令（平成25年厚生労働省令第19号）対応準拠】
- 薬科大学の薬事関連法規の教科書、各種セミナー・講習会などの薬事関連法規のテキスト、薬剤師国家試験用テキストとして、また医薬品業界関係者の薬事法の入門書、新人研修用としても最適です。

翁 健、 鯉澤照夫、 木村豊彦、 山川洋平 共著 A5判・総1008頁 定価 3,990円(税込)

薬事日報社

書籍のご注文は、オンラインショップ (<http://yakuji-shop.jp/>) または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。